食欲症の患者に対して心理面接および心理教育を実施したところ、体重増加および認知の変容を認めた症例を経験したので報告した。症例：A 子、24 歳、女性、中小企業の総合職、入院時身長 151 cm、体重 38 kg。BMI=16.6。主治：食給されない、眠れない。経過：X-1 年前摂え自体を視察された食事制限、自己誘発嘔吐が出現。半年で体重が 10 kg 减少する（43 kg）。X 年に摂えの浮気が発覚してからは拒食、自己誘発嘔吐が悪化、体重は 36 kg まで減少し、仕事に行けなくな XY 休職となる。家族、友人の強い勧めにより Y 県内の精神科に入院となる。治療経過：EAT-26=39 点と高値であった。仮診は無く「自分は病気ではない。自分は大丈夫、まだ瘦せたい、食べたくない」と訴えており、心理面接では A 子の訴えを受容的・共感的に傾聴した。拒食が少しずつ改善するに従って、心理教育の介入を開始した。心理教育では拒食・嘔吐症状は治療しなければならない症状である、段階的に行動治療を設定して治療を行っていくこと、などが伝えられた。心理面接の後半においては、A 子のダイエットや対人関係に対する歪んだ認知に対して介入された。入院 5 か月で体重 43 kg。BMI=18.9、EAT-26=31 点となり、退院となった。結論：本症例の発症・持続要因には、全般の認知行動パーキン、完全主義的な性格傾向、病態の少なさ、などが推測された。本症例においては患者との良好な治療関係を築き、心理教育的なアプローチを実施したことが治療に有用であったと考えられた。

6. 幼児期のトラウマが誘因と思われる入学後の対人不適応例について—発症症候から 4 年間の経過観察から—

鹿児島大学社会・行動医学講座心身内科1 志學館大学2 吉村病院

○富永小百合1,2,3 村村 野添 新一2,3

乾 喜夫1

目的：幼児期の短期失敗トウマが関わっていると思われる対人不適応例の治療経過を分析・考察すること。対象と方法：症例：7 歳（現在 11 歳）男児。主訴：幼児期より年少生活へといじめ。家族構成：両親健在一人っ子。母親は幼児期に「見捨てられ」不適応あり、結果：現病歴：学校入学後より、年少生に悪戯や暴力を振るったり、授業中に突然立してその場で尿や便を失禁するため注意を受けても、次第に繰り返していた。自宅では、母親の乳房を触ったり吸ったり、夜には両親の布団の中に入り込み 1 人で寝なくなるなど退行化が目立った。学校での話し合い後に当院へ紹介された、患児は小学校入学前ではいわゆる“いい子”であった。経過から、乳幼児期に母親が家後に短期間空かせたことがあり、それらによる「見捨てられ不適応」の関与と考えられた。母親が一日しごとを休み親子間の再構築を図るよう話し合うと同時に、ナルコキサミン 50 mg を約一年間使用し、2 週間から 4 週間に一回の診察を行った。その後症状は落ち着き、3 ～4 年生では友人でも相談の成長と思われた。5 年生に進級した頃から、父親への抵抗、同級生への悪戯・暴力、発喘棉等が再出現し、半年後に同級生に無視されるようになり登校を諦めるようになった。ナルコキサミンを再開し、母親自らすぐに仕事を休んで対応したところ徐々に落ち着きを取り戻している。考察と結論：乳幼児期の不安体験は長期に残存し、発達課題を直面するたびに問題が顕在化する可能性がある。今後児春期をどのように克服していくか課題であるが、課題に直面した時に早期に支援の態度を示すことが必要である。なお Y-G テストからみた問題について報告する。

7. 適応障害のかたちで受診に至った成人期の広汎性発達障害の 1 例—ウェクスラー成人知能検査 (WAIS) から何が見えるか—

福岡病院心療内科

○島田 章

はじめに：成人期の広汎性発達障害 (PDD) （とくに高機能群）は診断が困難であり、しばしば人格障害や統合失調症などを誤診され、治療が混乱することがある。今回社会人となり適応障害（即ち反応）の形をとった顕在化したアスペルガー症候群を考えられる成人例を経験したので報告する。ともに診断に必要なウェクスラー成人知能検査 (WAIS) の解釈について考察を加えた。症例：22 歳、男性、幼児期より口数は少なく、不器用なところはあったが、大きな問題はなく学業まで進学した。X-1 年 4 月大学卒業後すぐある企業（A 市）に就職したが、環境にしつめず 3 か月で退職した。同年 8 月今度は警備会社（B 市）に就職し警衛生活を始めた。しかし仕事の発症が悪化、ミスが多いなどの叱責を受け、10 月には急速に抑うつに陥り、自殺意念が高まってきた。死に場所を求めて自殺、最後は自ら保護を求めて警察署に出頭した。家族に引き取られ、実家にとり当院をすぐに受診、WAIS-R の結果：全 IQ70、言語性 IQ62、作業性 IQ64、PDD (アスベルガー症候群) が疑われた。休職の手続きの上、休養、薬物療法、精神療法、精神科ショートケア (復